

収蔵資料にみる秋の風景

令和4年(2022)10月12日(水)～12月24日(土)

広島県立文書館^{もんじょかん}は、広島県に関する歴史的資料として重要な行政文書、古文書、その他の記録を収集・保存し、利用していただくための施設です。現在当館では、行政文書約 64,000 冊、古文書約 295,000 点などの資料を収蔵しています。これらの資料は、インターネットに公開した「広島県立文書館データベースシステム」などで検索することができます。

本展では、当館の収蔵資料の中から、広島県に関する秋の風景や風物、行事等に関する資料を取り上げてご紹介します。これらの資料は、展示会の会期終了後、閲覧していただくことができます。関連の資料もありますので、広く活用していただければ幸いです。
(担当：荒木 清二)

浅野長矩書状^{ながのり}（山田蔵人重慶宛て） 9月10日 （山田家文書 198810-26）

赤穂事件^{あこう}（忠臣蔵）で有名な赤穂藩主・浅野長矩（1667～1701）が、三次藩（広島藩の支藩）の家老を務めた山田蔵人重慶^{たくみのかみ}に叙任されるのは延宝8年（1680）8月であるが、この書状の端裏には「浅又市郎長矩^{はし又ら}」の署名があるので、延宝7年以前のもものとみられる。内容は、重陽^{ちゆうやう}の祝儀として前日に訪問してくれた山田蔵人に謝礼を述べたものである。9月9日の重陽の節句は五節句の一つで、菊の節句とも呼ばれる。



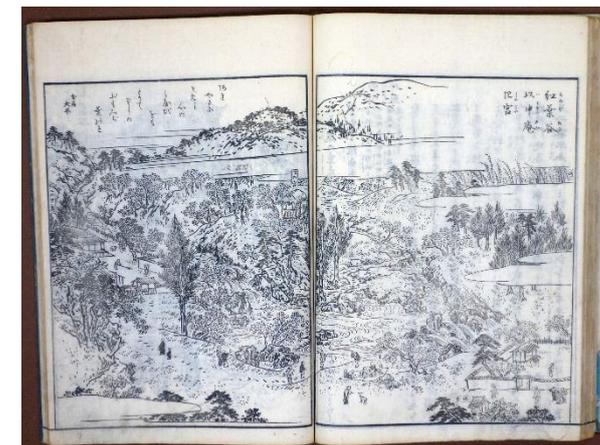
『巖島八景』^{いつくしまはっけい}（『伊都岐嶋八景』）上・中・下 元文4年（1739）（吉井家文書 200612-1634～1636）

「巖島八景」とは、江戸時代中期に巖島光明院の院主・惣信^{じょうしん}（1664～?）が中心となって選定した巖島の八つの勝れた風景のことで、「巖島明燈^{いつくしまのめいとう}」、「大元桜花^{おおもとのさくらばな}」、「滝宮水蛭^{たきのみやの}」、「鏡池秋月^{かみがいけのあきのつき}」、「谷原麋鹿^{やつがはらのびろく}」、「御笠浜舗雪^{みかさはまのほせつ}」、「有浦客船^{ありのうらのかくせん}」、「弥山神鴉^{みせんのしんあ}」で構成される。このうち、「鏡池秋月」は、鏡池（客神社そばの浜にある湧水の池、干潮時のみに出現）に満月が映り込む風景を表現したものである。



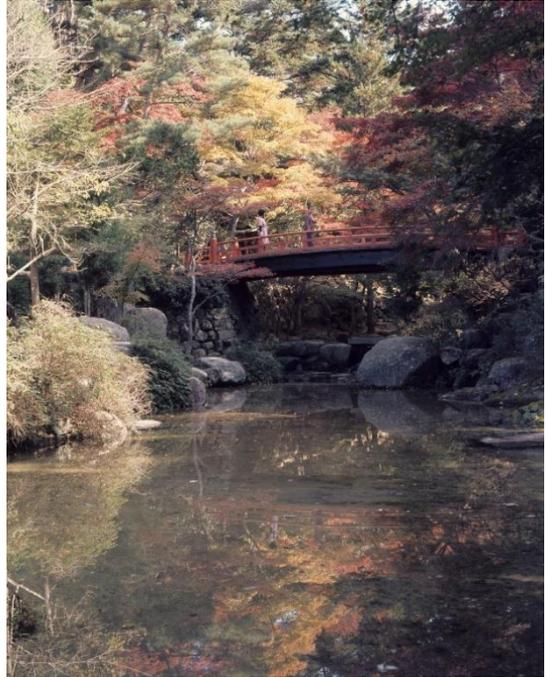
『芸州巖島図会』^{げいしゅういつくしまずえ} 岡田清編 天保13年（1842） （野坂家文書 198802-205）

天保13年（1842）に出版された巖島の地誌・案内書（全10巻10冊）。広島藩士で国学者の岡田清（?～1870）が編纂し、広島藩の絵師・山野峻峯齋守嗣^{やまのしゅんぼうさいもりつぐ}（1784～1852）が挿絵を描いた。右の写真は、巻3の「紅葉谷 以中庵 四宮」の挿絵部分。





[絵葉書] (厳島名勝) 老樹枝を交へ、清流樹間を縫ふ、紅葉谷公園 大正 7 年 (1918) ~ 昭和 7 年 (1932) (長船友則氏収集資料 200407-1659)



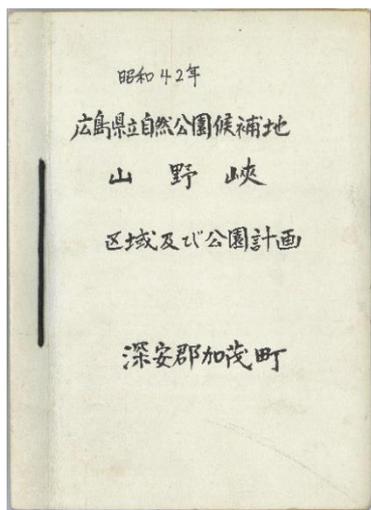
(右) 紅葉谷公園 (宮島町) 昭和 50 年代 (広島県広報写真 S05-2002-183-245)



聖湖 (樽床ダム) (広島県広報写真 S05-2008-3-2)



仏通寺 昭和 50 年代 (広島県広報写真 S05-2002-183-295)



山野峡の県立自然公園指定に関する文書 昭和 39~42 年 (1964~67) [山野村役場文書 (広島県重要文化財) 199607-5657~5659]

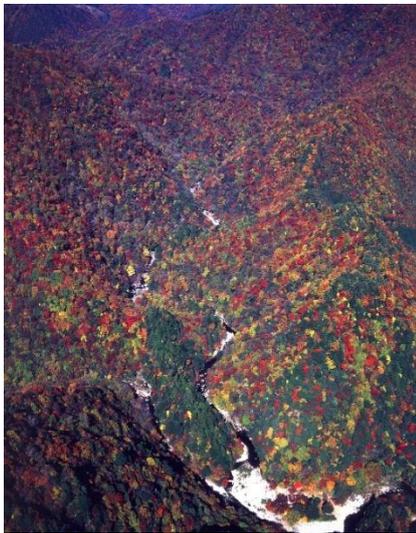
山野峡 (福山市山野町, 一部は神石郡神石高原町) は、日本有数の準平原である吉備高原の縁辺部を刻む典型的な侵食谷で、龍頭峡, 猿鳴峡等で構成され、昭和 42 年 (1967) 11 月 4 日に県立自然公園に指定された。この資料は、陳情書, 区域及び公園計画など、指定に関する一連の文書である。公園計画の「特殊景観」の項目には、「楓樹 (かえで) は殊に多く、秋には満山錦を飾る」と記されている。



(右) 帝釈峡 (神龍湖) 平成 9 年 (1997) (広島県広報写真 S05-2008-10-43)

『松落葉集』 佐々木正封編 明和5年(1768)編(奥田隆太郎氏収集
文書 199806-532)

山県郡加計村を中心とした太田川上流域の景勝53か所の絵に、漢詩や和歌などの賛を付けて紹介したもの。明和5年(1768)に加計村の佐々木(隅屋)正封が編集し、安永元年(1772)に出版された。序文には、この地域の景勝が中国・蜀地方の「三峨」,「三峡」に似ていると記されており、熊南峰による「三段峡」命名の典拠となった。右の写真は「月が瀬」の部分。



(左) 三段峡紅葉 昭和61年(1986)
10月(広島県広報写真 S05-2008-2-31)



可部線 坪野～
田之尻間にて
平成11年(1999)
11月3日(長船
友則氏収集資料
200407-610)



村の秋祭り [神石郡三和町(現在の神石高原町)時安] 昭和
53年(1978)11月15日(広島県広報写真 S05-2002-183-181)



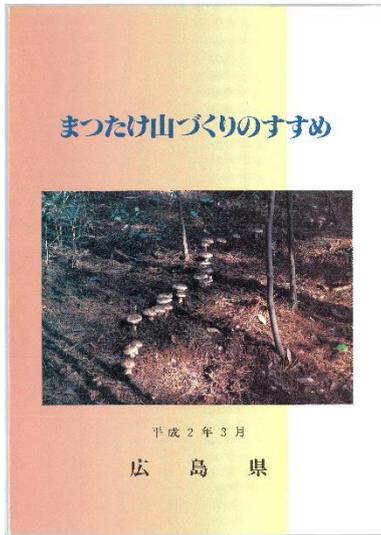
[絵葉書] 広島市私立山中高等女学校第十回運動会
全校生徒体操 大正2年(1913)11月2日

(原田家文書 199206-33)

「[時雨の山めぐり記]」 保田家六代当主九左衛門著
[保田(義郎)家文書 199808-150]

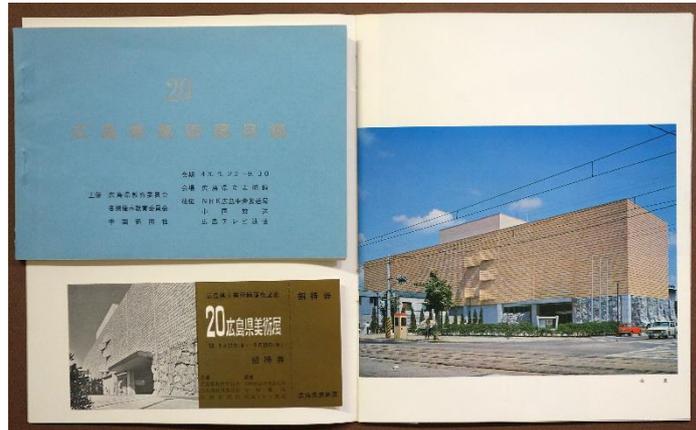
広島城下京橋町の商家・保田家の六代当主九左衛門(忠昌・福抱, 1759~1823)が、西白島町の酒造業者で画人の山田来青(1776~1826)と広島近郊を旅した時の紀行文。旧暦8月下旬、牛田の日通寺(現在の広島市東区牛田新町)から船で太田川を渡り、祇園社, 大町, 安村, 高取を経て長楽寺で昼食をとり、伴, 大塚から己斐村へ下り、城下に戻っている。長楽寺観音堂や、柴を背負う人などの絵も挿入され、現在のアストラムライン沿線の深まりゆく秋の風景を描写している。





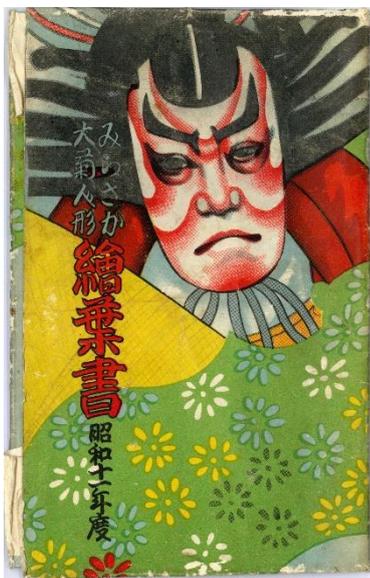
「まつたけ山づくりのすすめ」広島県林務部林業振興課 平成2年(1990)3月(行政資料 6060-2000-164)

かつて広島県は、秋の代表的な味覚であるまつたけの全国一の産地であった。最盛期の昭和28年(1953)には1,815トンの生産量を誇ったが、1990年頃には150トン前後に落ち込んでいた。この冊子は、平成2年に広島県が生産者向けに発行したもので、県の試験研究等の成果を踏まえて、これからの環境整備の進め方について解説している。なお、広島県が全国一になったのは平成17年(2005)が最後で、その後も減少し、令和3年(2021)の生産量はわずか0.154トンである。生産量の推移は、県が毎年発行している特用林産物(林業特産物)の生産販売統計で知ることができる。



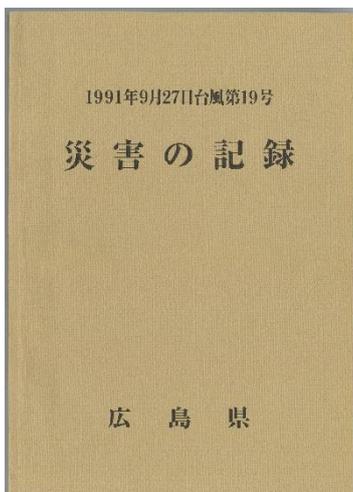
旧広島県立美術館の開館に関する資料 昭和43年(1968)9月(坊敏之資料 200105-11~15)

戦後、会場を分散して開催していた広島県美術展(県美展)を1か所で開きたいとの願いの下に、昭和30年(1955)から県立美術館建設の募金運動が展開され、総工費2億7700万円に対して、1億1300万円の寄付金が集まった。美術館は明治百年記念事業の一環として建設され、昭和43年9月21日に落成式を挙行、翌22日から30日まで第20回県美展が開催され、会期中約2万人が「芸術の秋」を堪能した。



みらさか大菊人形絵葉書 みらさか遊楽園 昭和11年(1936)(藤原惣一収集文書 202001-59)

双三郡三良坂町(現在の三次市)では、大正初期に菊作りが始まり、昭和7年(1932)に初めて菊花展が開催された。昭和11年には菊人形が盛んな枚方(大阪府)から人形師を招き、大規模な菊人形展・菊花展を開催した。この展示会は、県北地方では画期的な催しだったので、各地から大勢の観客が来町した。



「災害の記録—1991年9月27日台風第19号—」 広島県 平成5年(1993)3月(行政資料 1060-93-142)

平成3年(1991)9月27日に来襲した台風19号は、広島市で最大瞬間風速58.9m/sを記録し、死者6人、家屋全壊・半壊492戸など、甚大な被害を出した。台風通過後も塩害による停電が広範囲で発生した。



楽々園 菊人形展のパンフレット (山田迪孝文書 200013-156・157)

戦前に広島市草津町荒手の菊楽園で行われていた菊人形展は、戦後は佐伯郡五日市町(現在の広島市佐伯区)の楽々園遊園地で開催されるようになった。このパンフレットは、昭和30年代のものとみられる。